

組織的な大学院教育改革推進プログラム 平成19年度採択プログラム 事業結果報告書

教育プログラムの名称 : 拠点融合型プロフェッショナル臨床医教育
 機関名 : 神戸大学
 主たる研究科・専攻等 : 医学研究科医科学専攻
 取組代表者名 : 東 健
 キーワード : 高度臨床拠点、臨床技能、専門医養成

I. 研究科・専攻の概要・目的

神戸大学大学院医学研究科は、人間性豊かで高い倫理観並びに探求心と創造性を有する科学者としての視点を持つ医師/医学研究者を育成するために国際的に卓越した教育を提供することを基本理念としている。この基本理念に基づき、「医学・生命科学領域における高度で先端的・学際的研究を推進するとともに、将来、医学・生命科学を担う優れた医学研究者並びにリサーチマインド及び高度な臨床技能を兼ね備えた臨床医（高度職業人）の養成を目的とする。」と「神戸大学大学院医学研究科規則」第3条(2)に定め、公表している。当研究科では大学院設置以来2つの主科目を専攻する主科目分担制度を設け、医学・生命科学分野の基礎研究者の養成に積極的に取り組み、特に細胞内シグナル伝達分野等において世界をリードする人材を輩出してきた。

現在、教員数は139名、学生数は博士課程 392名・修士課程 44名である。

II. 教育プログラムの概要と特色

(1) 当プログラムの目的

医学系大学院は、従来、研究者として自立するに必要な研究能力を培い、医学における特定の専門分野について深い研究を行い得る研究者の養成を行い、学術研究を遂行することを主な目的としていた。しかし、臨床医学系の大学院は、これら研究者のみならず、医師として高度の専門性を必要とされる業務に対応した能力と研究マインドを涵養することも求められるようになってきており、医学系大学院が果たすべき機能は多様化している。したがって、医学系大学院においては、専攻や分野の枠を超えて、研究者養成と、優れた研究能力を備えた臨床医の養成のそれぞれの目的に応じて、研究科として二つの教育課程を設けて、大学院学生に選択履修させることが必要である。神戸大学大学院医学研究科もこれまで主に「研究者養成」を目指して大学院を運営し、平成17年度より採択された「魅力ある大学院教育」イニシアティブプログラム「生命医科学リサーチリーダー育成プログラム」において、「研究者養成」を強化してきた。この「研究者養成」に対して、高度臨床専門教育コースをさらに強化した「臨床技能の修得を重視したリサーチマインドを持つ臨床医の養成」を目的とする「拠点融合型プロフェッショナル臨床医教育プログラム」を設けて、平成19年度より実施した。

(2) 当プログラムの特徴と内容

- ①臨床系の医学系大学院コースとして、神戸大学関連病院専門医認定拠点、兵庫県下の高度先進医療拠点、神戸大学の海外新興・再興感染症拠点等、地域特性を有機的に融合させたコースであり、臨床技能の習得を重視したリサーチマインドを持つ臨床医の養成を行う。
- ②採用する学生は、後期研修を2年以上修了し、自身の臨床分野を既に決定している臨床系大学院専攻に所属する学生であり、希望する学生から自ら設定した研究を科研費の書式に準じてリサーチプロポーザルを提出させ、審査委員会で審査して少人数教育として各年度約10名以下を採択する。採択学生には、年間70～100万円（各年度の配分予算に応じて決定）の研究費（リサーチ・グラント）を支給し、RAに採用して、自律的研究遂行能力やプロジェクトの企画やマネジメントなどの能力を高めるプログラムになっており、自由発想型の自主的・創造的な研究を行う研究者の養成を目指している。
- ③関連する分野の基礎的素養の涵養を図るために、共通科目としてジェネラルレクチャー、

スペシャルレクチャー、クリニカルプラクティス、アドバンスドプラクティス、国際コミュニケーション、医学研究先端コースを履修させ、関連領域に関する組織的な教育で幅広い視野を身につけさせるとともに、学際的な分野への対応能力を含めた専門的知識を活用・応用する能力を培う。

④専門医取得のための専門医取得コース（必修）を履修させる。このコースでは、兵庫県立病院を中心とする神戸大学医学部関連の各種学会専門医認定病院と有機的に融合した臨床教育（学生の派遣と拠点での指導）を実施し、関連学会における専門医認定資格を取得する。同時に、医の倫理、臨床心理、医師と患者関係、安全管理、臨床研究方法、臨床教育法・指導法など、臨床医に求められる資質や能力を養う。2年次の履修を基本とするが、学会により必要な研修期間があるため各専門医取得要綱に応じた対応を行う。

選択必修として、(a) 兵庫県内の高度先進医療拠点である神戸内視鏡センター、兵庫県立がんセンター、兵庫県立粒子線医療センター、兵庫県立こども病院、兵庫県立こども病院周産期医療センターなど兵庫県下の高度先進医療拠点と有機的に融合（学生の派遣と拠点での指導）し、内視鏡手術、腹腔鏡手術、マイクロサージェリーなどの高度臨床技能を修得させる高度臨床技能修得コースと、(b) 神戸大学の海外振興・再興感染症拠点（インドネシア、タイ、ベトナム）と神戸大学医学部附属医学医療国際交流センターを有機的に融合（学生の派遣と拠点での指導）させて国内では十分に教育出来ない新興・再興感染症の診断・治療を中心とした国際的臨床技能を修得させる。

⑤十分な実績と経験を有する教員や、大学や企業の第一線で活躍する研究者などを学内外から招いて「生命科学研究論文・申請書作成特論」を開講し、臨床医学系研究論文や研究費申請書作成に必要な基礎知識を養う。

⑥ネイティブ英語教師による大学院特別英語を少人数レッスンとして開講して、各自の研究内容や成果などの国際学会発表において必要となる、プレゼンテーションの仕方、英語でのコミュニケーション、論文作成などの能力を育成する。

⑦毎年度末には、研究進捗状況報告会を開催し、各自の研究進捗状況、課題、解決策などを報告させ、複数の関連分野教員の指導と評価により、翌年度の研究とRA継続の審査を受ける。

海外での研究発表や調査研究を通じて国際的研究活動経験を積ませるため、希望者を募り年間2名に参加費、交通費、宿泊費を最大20万円まで援助する。

⑧学位論文の基準として、筆頭著者論文の Current Contents, Index Medicus, Science Citation Index の何れかに掲載されている国際欧文雑誌への受理を義務付け、3年次早期修了要件として Impact Factor 4 以上の国際欧文誌への受理も適用する。ただし、臨床系大学院の研究環境や自主的・創造的研究では短期間で成果を得難い事情を考慮し、研究実施過程を重視した審査を行い、当専攻発行の Kobe J. Med. Sci. (peer review あり、Index Medicus に掲載)への受理も可としている。学位論文審査は、公開の学位論文発表会の開催と、指導教員を除く3名の教員により行う。

⑨病院・公的機関等に在籍しながら研究を行い、博士号取得を目指す社会人学生へも門戸を開いており、夜間その他特定の時間や時期に授業や研究指導を行う方式の導入で、当プログラムの履修を可能としている。

(3) 期待された成果、養成される人材像

高度臨床技能修得コースと国際臨床技能修得コースにより、特定分野の知識・技能だけでなく、臨床試験の計画と進め方、臨床統計学、学会プレゼンテーションなどからなるジェネラルレクチャーと、各診療科における臨床カンファレンス、画像診断実習などからなるクリニカルプラクティスで関連する分野の基礎的素養の涵養を図ることで、社会から求められている医師として高度の専門性を持った能力と研究マインドの養成が期待される。また、リサーチプロポーザルを実施し、リサーチ・グラン

トの支給により自立的研究遂行能力やプロジェクトの企画・マネジメント能力の向上が期待される。さらに神戸内視鏡センター、兵庫県立がんセンター、兵庫県立粒子線医療センター、兵庫県立こども病院、同病院周産期医療センター等の兵庫県下の高度先進医療拠点や、兵庫県下の病院を中心とした神戸大学医学部関連病院である各種学会専門医認定病院と融合した教育体制を確立しており、地域連携活動の一層の推進と、人材養成を含めた地域の発展のためにその役割を積極的に果たしていくことができる体制を整えている。加えて、神戸大学の海外振興・再興感染症拠点（インドネシア、タイ、ベトナム）と神戸大学医学部附属医学医療国際交流センターとの有機的融合の体制も整備している。これらにより、地域の拠点機関と有機的に融合して社会のニーズに対応する人材、国際的な場でリーダーシップを発揮できる世界水準の人材、さらには、先進的臨床技能を修得したリサーチマインドを持つ、高度プロフェッショナル臨床医が養成されると考える。

（４）独創的な点

臨床技能の習得を重視したリサーチマインドを持つプロフェッショナル臨床医の養成を目的として、年度毎に10名程度を採用して少人数教育を実施し、自由発想型で自主的・創造的な患者を対象とする臨床研究の遂行能力を修得させるとともに、兵庫県下の病院を中心とする神戸大学医学部関連病院である各種学会専門医認定病院と高度先進医療拠点、さらに神戸大学の海外振興・再興感染症拠点（インドネシア、タイ、ベトナム）と神戸大学医学部附属医学医療国際交流センターとを有機的に融合させることで、臨床系大学院教育の実質化と世界規模での競争力強化を目指した独創的なプログラムである。

Ⅲ. 教育プログラムの実施結果

1. 教育プログラムの実施による大学院教育の改善・充実について

（1）教育プログラムの実施計画が着実に実施され、大学院教育の改善・充実に貢献したか

特別講義の実施

生命科学論文・申請書作成特論

学外の卓越した業績を有する教授や専門家、並びに当専攻所属教授による計10回の講義を行った。一流雑誌に投稿した経験に基づく実践的な講義や、申請書審査の経験に基づく効果的な申請書作成方法や注意点などが講義され、非常に関心の高い内容で学生の満足度が高く有用であったと考える。学生へのアンケートの回答で、なかなか知ることが出来ない採択されるための作成方法を知ることができた点を利点に挙げるコメントが多かった。

大学院特別英語

Native speaker の講師を招いて、英語会話とプレゼンテーション指導の授業を実施した。日常英会話に加え文化の違い環境でも戸惑わずに研究活動が出来るようになる事を目標に週1回で計8回を各年度に開講した。英語によるプレゼンテーション技術は、通常の大学院課程で学ぶ機会がないためその指導は非常に有効で、国際学会における発表のみならず、海外の研究者との研究打ち合わせなどにおいても必ず役立つと考える。少人数でのグループプレッスンを予定していたが、当プログラム履修学生以外にも履修できるように配慮し10名の学生に対して1名の講師で授業を行った。学生からは授業回数あるいは時間の増加を希望する意見が多くみられた。また学生各自の英語力にバラツキがあり、学生によっては授業内容の改善を求める意見もあった。外部から英語講師の派遣を依頼している状況では、財政的に英語力によるクラス編成や授業時間の増加は難しいと考える。国際的に活躍できるリサーチマインドを有する臨床医を教育するためには、学生個人に常に英語の必要性を認識さえ、学習する機会を提供する努力を続ける。

共通科目における講義

学外より医学・工学・物理学などの分野で医学に関係する最先端研究を行っている研究者（教授や准教授）を講師として招聘し、当プログラム採用学生以外にも聴講できる形式で先端医学をテーマにした講義を行った。臨床的に非常に有用で実用化が期待される医療機器やデバイス、医療技術トレーニ

ングなど多岐にわたる内容で、他分野と連携した医学研究の最先端の状況を学習でき、視野を広げる機会が与えられたと考える。

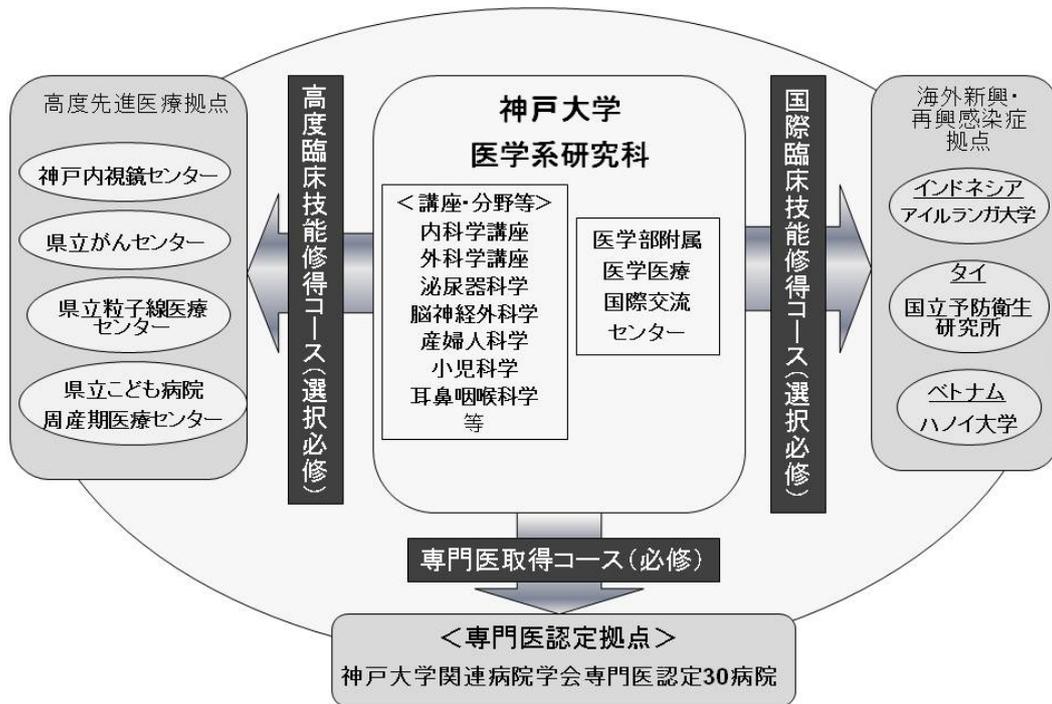
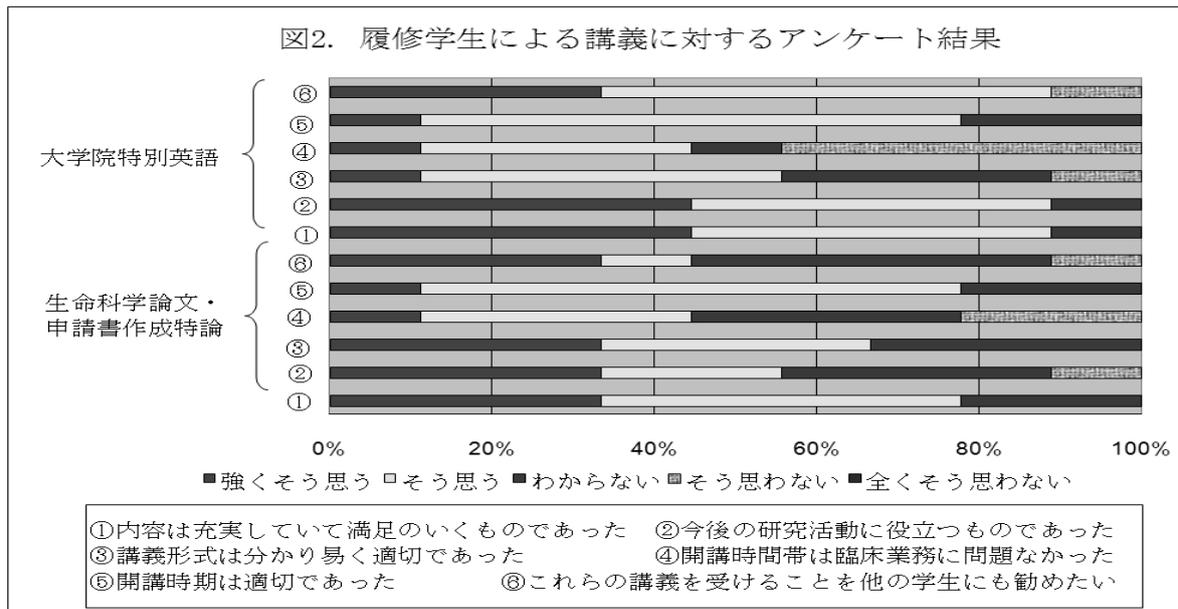


図 1. 当プログラムの概要図



2. 教育プログラムの成果について

(1) 教育プログラムの実施により成果が得られたか

臨床技能実習

専門医取得コース

神戸大学医学部附属病院とその関連病院である各種学会専門医認定病院と有機的に融合した臨床教育により、関連学会における専門医認定資格を取得する準備を進め、医の倫理、臨床心理、医師と患者関係、安全管理、臨床研究方法、臨床教育法・指導法など、臨床医に求められる資質や能力を涵養することができた。平成21年度3月現在、当プログラム履修学生のうち6名が専門医認定資格を取得した。

高度臨床および国際臨床技能修得コース

兵庫県下の高度先進医療拠点との有機的融合において、内視鏡手術、腹腔鏡手術、血管マイクロカテーテル等のトレーニングを実施して高度臨床技能を修得させた。学生へ行ったアンケートの回答で、研究と同時に高度な臨床技術や知識修得の両立が行えて良いという意見が目立つ一方、分野によっては融合する拠点において十分な高度臨床技能修得の指導を受けるのが難しい、高度臨床技能に対するサポートの向上を希望する、などの意見があり、分野に偏りなく高度臨床技能を指導できる体制の充実が必要であろう。また神戸大学の海外新興・再興感染症拠点へ学生を派遣させて、国内では十分教育できない新興・再興感染症の診断や治療などの国際的臨床技能を修得させることができた。国際臨床技能修得においては、財政的な問題もあり多くの学生を海外振興・再興感染症拠点へ長期間派遣することが困難で、時間的にも現地における教育指導の実施が難しい現状があるが、プロフェッショナルな臨床医を育成するために当コース充実の努力を続ける。

・海外研究発表・研究調査援助について

平成19年度は当プログラム履修学生の採用時期が遅かったために当援助希望者はいなかった。平成20年度は2名（アメリカ、ベトナム）、平成21年度には5名（アメリカ：2名、ドイツ、イギリス、韓国それぞれ1名）から希望があり、援助を行い、各自研究成果を国際学会に参加して発表し、研究調査や意見交換などを実施させ、国際的に学术交流を持つ良い機会を与えることが出来たと考える。

・進捗状況報告会について

当プログラム履修学生全員に科学研究費補助金申請の書式に準じて1年間の研究経過と次年度以降の研究計画・方法などを年度末に提出させた。進捗状況報告会において12分間の発表を行い、当該学

生所属の指導教員を除く3名の当専攻科教員から8分間の質疑応答と研究指導を受け、評価により次年度への当プログラム履修の継続、RAの継続や研究費の配分を審議・決定した。なお平成21年度においては出産の都合で進捗状況報告会への出席が困難な学生がいたため、事情を配慮して当年度の報告会出席は免除することとした。

評価結果の発表とそれに対するfeedbackを充実したものとするために、審査員からのコメントやアドバイスは進捗状況報告会終了後に各学生に知らせて、成果報告プレゼンの方法や研究計画の充実に活用するようにした。審査員から質問や指導は、研究内容・計画やデータの評価に関することに加えて、プレゼン技術の指摘、ネガティブ評価を受けた場合の対処法やそれによる研究計画の対策、回答が困難な質問に対する対処能力を視るなど、研究者としての能力を向上させる効果があると考えられる。また他分野の審査員が1人の学生の研究指導を行うことで多面的なチェックと詳細な教育ができ、さらに大学院教育に対する意識向上にも効果があったと考える。学生にとっては、報告書作成や準備、厳しい質問など大変な報告会であるかもしれない。実際、学生に行ったアンケートの回答の中で、質問の多さや厳しさを指摘する意見が見られた。しかしながら、進捗状況報告会を機に研究内容や経過を整理でき見直すことができた、客観的なアドバイスや助言を得られ良かった、など有意義であったと前向きに捉える意見が多いのは興味深い。

3. 今後の教育プログラムの改善・充実のための方策と具体的な計画

(1) 実施状況・成果を踏まえた今後の課題が把握され、改善・充実のための方策や支援期間終了後の具体的な計画が示されているか

約2.5年間実施する中で問題となった事の一つとして、講義開講時間帯の社会人学生の臨床業務への影響が挙げられる。開講時間帯を夕方以降に設定したが、講義開始時間からの出席が困難であったり、検査や手術などの臨床業務が長引いて講義へ出席出来ないなどの問題が生じており、講義開始時間の調整や講義日程通知の早期化などの対策が必要と考える。また一部の講義では単位取得条件を満たすためだけの出席なのか、授業に対する積極性の低さが見られた。各講師へ講義の趣旨の周知と講義内容の検討、および簡潔でも良いので出席した講義に対するレポート提出などを単位取得の条件にするなど、改善を検討すべきと考える。今回学生へ実施した研究指導、講義や当プログラムに関するアンケートの結果を参考に、FDも含めて大学院教育の改善を検討していく。

(2) 平成22年度以降の実施計画

平成21年度末の進捗状況報告会で履修継続が決定した学生のうち社会人学生以外を平成22年度もRAに採用する予定である。リサーチグラントも一人当たり年間60万円の支給、および海外研究発表・研究調査援助を予定している。なお平成22年度以降は当プログラムへの新規の学生募集は予定していないが、当プログラムにおける有用なカリキュラムや問題点を精査して当研究科に平成21年度から設けている医療人育成過程に反映させ、このコースで引き続き対応していく。

4. 社会への情報提供

(1) 教育プログラムの内容、経過、成果等が大学のホームページ・刊行物・カンファレンスなどを通じて多様な方法により積極的に公表されたか

神戸大学大学院医学研究科・医科学専攻のホームページに当プログラムのサイトを作成し、プログラムの内容、経過などを掲載し、広く社会にそして学内に情報提供を行っている。今後成果の報告やアンケートの解析が終了した時点でその結果を掲載することを検討している

5. 大学院教育へ果たした役割及び波及効果と大学による自主的・恒常的な展開

(1) 当該大学や今後の我が国の大学院教育へ果たした役割及び期待された波及効果が得られたか

臨床技能の習得を重視したりサーチャイブを持つプロフェッショナル臨床医の養成を目的として、年度毎に10名程度を採用して少人数教育を実施し、自由発想型で自主的・創造的な患者を対象とする臨床研究の遂行能力を修得させるとともに、兵庫県下の病院を中心とする神戸大学医学部関連病

院である各種学会専門医認定病院と高度先進医療拠点、さらに神戸大学の海外振興・再興感染症拠点（インドネシア、タイ、ベトナム）と神戸大学医学部附属医学医療国際交流センターとを有機的に融合させることで、臨床系大学院教育の実質化と世界規模での競争力強化を目指した独創的なプログラムである。

このプログラム終了時点で、専門医認定資格を所得したのは6名、博士（医学）の学位授与が決定したのは2名である。これらを当プログラムの成果の一つと考えたい。

(2) 当該教育プログラムの支援期間終了後の、大学による自主的・恒常的な展開のための措置が示されているか

「今後の教育プログラムの改善・充実のための方策と具体的な計画」でも触れたとおり、平成21年度末の進捗状況報告会で履修継続が決定した学生のうち社会人学生以外を平成22年度もRAに採用する予定であり、研究費の支給、および海外研究発表・研究調査援助を予定している。なお平成22年度以降は当プログラムへの新規の学生募集は予定していないが、当プログラムにおける有用なカリキュラムや問題点を精査して当研究科に平成21年度から設けている医療人育成過程に反映させ、このコースで引き続き対応していく。なお神戸大学では、「学術研究推進機構」、「国際交流推進機構」、「大学教育推進機構」の強化など学内体制を整備し、国際性に富みながら地域の特性に応じたアプローチの支援、部局横断的な先端研究、融合研究を可能にする環境づくりを進めている。これらの機構と連携しながら、当プログラムの自主的・恒常的な展開を図っていく。

組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会における評価

【総合評価】
<input type="checkbox"/> 目的は十分に達成された <input type="checkbox"/> 目的はほぼ達成された <input checked="" type="checkbox"/> 目的はある程度達成された <input type="checkbox"/> 目的はあまり達成されていない
<p>〔実施（達成）状況に関するコメント〕</p> <p>後期研修を2年以上修了し、専門分野が決定している大学院生を対象に毎年10名以内を選抜して、リサーチマインドを持った高度プロフェッショナル臨床医の養成を目指したプログラムである。専門医取得は6名、博士論文提出者は2名がでており、少人数に絞った意欲的なプログラムであるが、専門医取得が最終目標ではなく、リサーチマインドの涵養が重要と考えられるので、その達成指標や評価指標をより明確にすることが求められる。</p> <p>また、このプログラムにより養成される人材が、真に次世代のリーダーになれるかどうかなど、養成されるべき人材の将来像と、その養成に関する視点についてもより明確にすることが求められる。さらに、臨床と研究の両立における、授業時間の確保や研究指導の継続性の問題点が浮き彫りになっているが、その具体的な対策について検討が必要である。</p> <p>なお、支援期間終了後の展開については、一層の具体化と努力が求められる。</p>
<p>（優れた点）</p> <p>少数に絞って、臨床と研究を両立させようとした意欲は評価できる。</p> <p>（改善を要する点）</p> <p>養成される人材像と到達する目標をより明確にすることが求められる。専門医の取得が目的ではなく次世代のリーダーを養成する視点が重要であり、表面的でなく根本的な対策が検討されるべきである。臨床と研究を両立させることはかなりの困難を伴うことが予想されるので、長期にわたる取組と継続的な工夫が必要であり、このプログラムの教育効果が継続されるための具体的な方策が求められる。</p> <p>また、この期間において蓄積された経験や知識が生かされるような、具体的なビジョンも必要である。更に、このプログラムに選抜された大学院生以外の多くの大学院生を対象とした有用な教育プログラムも併せて考えることが望ましい。</p>

組織的な大学院教育改革推進プログラム事後評価
 評価結果に対する意見申立て及び対応について

意見申立ての内容	意見申立てに対する対応
<p>1件目</p> <p>「実施(達成)状況に関するコメント」 <u>専門医取得が最終目標ではなく、リサーチマイン드의涵養が重要であるのだが、その達成指標や評価指標をより明確にすることが求められる。</u></p> <p>「改善を要する点」 <u>養成される人材像と根本的な目的を明確にすべきである。</u></p> <p>【意見及び理由】 本プログラムでは専門医取得を必須としておりますが、研究においては、学生の自立的研究遂行能力とプロジェクト企画能力を図るために、自身で臨床医学リサーチプロポーザルを記載させ、リサーチグラントを支給し、これらによりリサーチマイン드의涵養が図られ、毎年度末に研究進捗状況報告・審査会を開催し、複数教員による指導、プログラム管理、成績評価が明確にされております。これらは総合的に学生の能力開発に寄与し、ひいては、臨床の知識、技術のみではなく、同時に指導者を育てるといった目的を十分に果たしていると考えております。</p>	<p>【対応】 以下の通り修正する。</p> <p>「実施(達成)状況に関するコメント」 <u>専門医取得が最終目標ではなく、リサーチマイン드의涵養が重要と考えられるので、その達成指標や評価指標をより明確にすることが求められる。</u></p> <p>「改善を要する点」 <u>養成される人材像と到達する目標をより明確にすることが求められる。</u></p> <p>【理由】 「実施(達成)状況に関するコメント」については、専門医取得を必須として、さらに学生のリサーチマイン드를涵養することを目指しているが、何をもってリサーチマイン드가涵養されたかという達成指標や評価指標が十分に明らかにされていないため、これを明確に示すことによる教育効果の検証と今後の工夫と改善を求めた指摘であり、上記のとおり修正した。</p> <p>「改善を要する点」については、到達する目標へ向けて、より積極的に、組織的にどのような人材を養成するのかを明らかにし、そのための対応を要するという指摘であることから、趣旨がより明確になるよう、表現を修正した。</p>

2件目

「実施(達成)状況に関するコメント」

真に次世代のリーダーになれるかどうかなど、養成されるべき人材の将来像と、その養成に関する視点を明確にすることが求められる。

「改善を要する点」

長期にわたる取組が必要であるが、このプログラムの教育効果が継続されるための方策が必要である。

【意見及び理由】

本プログラムでは、募集に際して、臨床技能の修得を重視したリサーチマインドを持つ臨床医の育成を目的としていることを明示しており、養成に関する視点を明確にしています。また、高度臨床技能の開発や修得のために、大学外拠点として、神戸医療機器開発センター等の施設を利用してプログラムを実施しています。現在、3年間のプログラムにおいて、大学院修了者が出てきたところで、今後、本プログラム修了者が、引き続き、臨床と研究に従事することを継続することにより、臨床分野におけるリーダーになっていくこととなります。現在、本プログラムの発展により、グローバル COE「次世代シグナル伝達医学の教育研究国際拠点-基礎・臨床医学実質融合による Clinician-Scientist の育成-」における大学院コースと科学技術振興調整費「生命医学イノベーション創出リーダー養成」が進められており、リサーチマインドを持つ臨床医の育成が継続され、トランスレーショナルリサーチも進展している状況です。また、これらのプログラムにおいても、本プログラムでの学外の拠点が継続的に参画しております。

【対応】

以下の通り修正する。

「実施(達成)状況に関するコメント」

真に次世代のリーダーになれるかどうかなど、養成されるべき人材の将来像と、その養成に関する視点についてもより明確にすることが求められる。

「改善を要する点」

臨床と研究を両立させることはかなりの困難を伴うことが予想されるので、長期にわたる取組と継続的な工夫が必要であり、このプログラムの教育効果が継続されるための具体的な方策が求められる。

【理由】

「実施(達成)状況に関するコメント」については、より積極的に、組織的にどのような人材を養成するのかを明らかにし、それに向けての対応を求めた指摘であり、「改善を要する点」については、他の事業ではなく、本事業として教育効果が継続するための方策を示すことが求められるため、上記の通り修正した。

3件目

「改善を要する点」

このプログラムに選抜された大学院生以外の多くの大学院生に有用な教育方法も考える必要がある。

【意見及び理由】

現在、医学研究科全体を基礎・臨床実質融合システムを構築するために、基礎・臨床ダブルアポイントメント教員を19名（教授8名）配置し、研究科全体で、大学院生にリサーチマインドを持つ臨床医の育成を進めています。

以上により、神戸大学医学研究科医科学専攻としては、本プログラムの目的はかなり達成されたと考えております。しかし、今回の評価に際しては、「ある程度達成された」との評価となり、残念に思います。本プログラムは、継続的なものであり、また、他のプログラムに対しても大きく影響を与え、かつ、現在も進行しておりますが、3年間という期間においては、途中評価となったかもしれません。今後の発展も含めた評価を得られればと希望いたします。

【対応】

以下の通り修正する。

このプログラムに選抜された大学院生以外の多くの大学院生を対象とした有用な教育プログラムも併せて考えることが望ましい。

【理由】

このプログラムに選抜された大学院生以外の学生に対して、どのように教育内容やシステムの優れた部分を検証・分析して、波及させているのかが不明であったための指摘であり、上記の通り修正した。

また、総合評価については、教育プログラム全体を通じたものであることから、変更しない。